

令和 6 年 3 月 1 日

福岡県教育委員会教育長 殿

所属校名 宗像市立赤間小学校
職・氏名 教諭 對間 仁志
指導者名 教諭 西島 大祐

研 修 最 終 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

- 1 研修種別 C 福岡教育大学附属福岡小学校研修員
2 研修場所及び所在地 福岡教育大学附属福岡小学校
〒810-0061 福岡市中央区西公園 12 番 1 号
TEL (092) 741-4731
FAX (092) 741-4744

3 研究主題及び副題

道徳的価値の自覚を深める道徳科学習

～心見つめシートの活用を位置付けた学習過程を通して～

4 研究内容の概要

(1) 主題の意味

道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の基礎となるものである。学校教育では、子供の発達の段階を考慮して内容項目として整理されている。

自覚するとは、自分を何らかの基準に照らして見つめ、今の自分はどうであるかを考え、理解することである。

道徳的価値を自覚するとは、道徳的価値と照らして自分を見つめたときに、今の自分がどうであるのかを考え、理解することである。

道徳的価値の自覚を深める道徳科学習とは、道徳的問題場面について考えることを通して、自分の考えや行動を振り返り、自分との関わりで追求し、理解した価値を基に、自己を見つめ、道徳的实践への思いを確かにする学習である（図1）。

そこで、本研究では、以下のような子供の姿を目指す。

- 道徳的問題場面における自分の経験を想起し、自分の考えや行動を振り返る子供（自己理解）
- 教材を通して理解したことを基に、自分の考えを付加、修正、強化し、自分との関わりで価値を理解する子供（価値理解）
- 付加、修正、強化した考えを基に、道徳的实践への思いを確かにする子供（実践意欲）

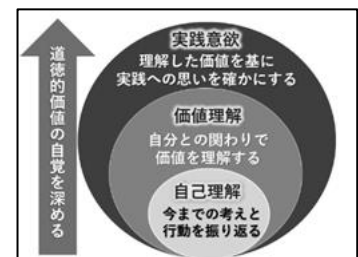


図1 主題のイメージ

(2) 副題の意味

心見つめシートとは、道徳的問題場面に対して自分だったらどのような行動をとるか、それはどうしてかについて考えたことを書き出すシートである（図2）。このシートを活用することで、自分の心を客観的に見つめながら、自分がどのような考えをもって行動を判断しているのかを理解することができる。また、学習を通して、新たに気付いた考えや変化した考えをシートに書き加

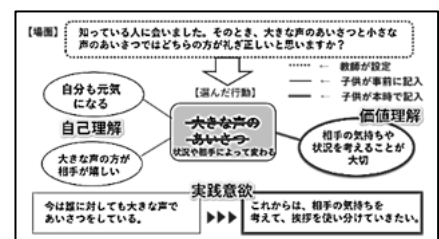


図2 心見つめシート（例）

えることで、今までの自分の考えと比べながら、考えの変容を捉えることができる。

心見つめシートの活用を位置付けた学習過程とは道徳的価値の自覚を深める子供の学習過程を「向き合う」「つかむ」「見つける」「見つめる」という4段階で設定し、それぞれの段階に心見つめシートの活用を位置付けることである。そうすることで自分との関わりで道徳的価値を理解したり、学習前後での自分の考えの変容を捉えたりしながら、道徳的価値に対する考えや行動を振り返ることができるようにする（図3）。

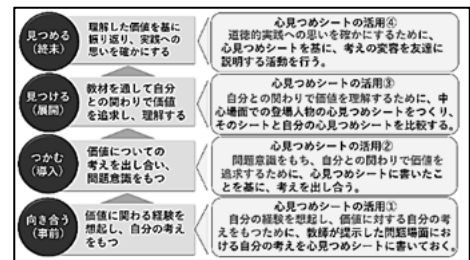


図3 心見つめシートの活用を位置付けた学習過程

(3) 仮説実証のための着眼

ア 価値に対する自分の考えや行動を振り返るための問題場面の設定条件と手順

価値に対する考えや行動を振り返るためには、具体的な場면을イメージすることが大切である。「向き合う」段階において、子供たちが自分の経験を想起し、自分の考えをもつことができるように、また「見つめる」段階で、理解した価値を基に自分の経験を振り返ることができるように、3つの条件に合う問題場면을提示する（図4）。また、道徳的問題場面の設定は、次の手順で行っていく。まず、本時で取り扱う教材の中から葛藤場면을抜き出し、対象、行為、判断に分けて整理する。そして、教材の中の葛藤場面と、対象や行為を子供の経験に近いものに変えた類似場면을問題場面として設定する（図5）。

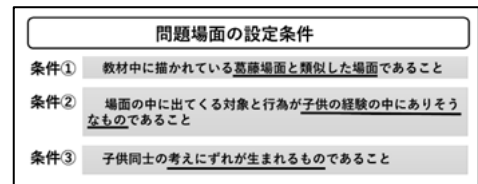


図4 問題設定の条件

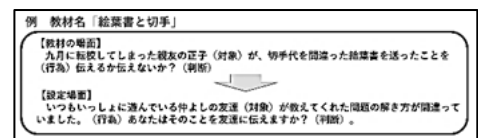


図5 設定した問題場面の例

イ 道徳的価値を自分との関わりで理解するための心見つめシート活用の具体

(7) 「つかむ」段階での心見つめシート活用の具体

「つかむ」段階では、心見つめシートに書いたことを基に、子供たちが考えを出し合う場を設定する。教師は子供が事前に書いた心見つめシートから、どのような考えをもっているかを把握し、子供の異なる考えを引き出すことで、考えのずれが生まれるようにする。そして、その考えのずれから、例えば、「友達の考えは自分と違うけれど、どちらの行動がよいのだろうか。」などと子供自身が道徳的価値についての問題意識をもち、自分との関わりで価値を追求することができるようにする。

(イ) 「見つける」段階での心見つめシート活用の具体

「見つける」段階では、登場人物が道徳的問題場面での葛藤を乗り越えたり、道徳的価値のよさに気付いたりする場面の考えを自分の心見つめシートと同じ形式の登場人物の心見つめシートを作成し、まとめていくようにする（図6）。その後、自分の心見つめシートと登場人物の心見つめシートを比較する活動を行い、自分の心見つめシートの考えを見直すことで、自分との関わりで道徳的価値を理解することができるようにする。

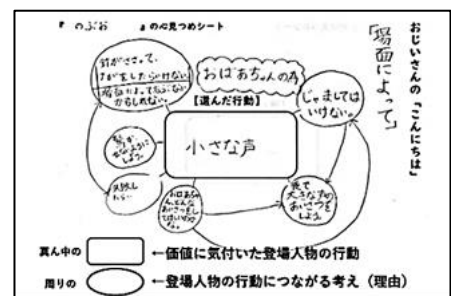


図6 登場人物の心見つめシート

ウ 道徳的実践への思いを確かにするための心見つめシート活用の具体

「見つめる」段階では、道徳的実践への思いを確かにするために、心見つめシートを基にした振り返り活動を行う。まず、考えを付加、修正、強化した心見つめシートを見ながら、自分の考えの変容を友達と説明し合う活動を行う。図化された考えを言語化することで、道徳価値についての新たな考え方や感じ方が明確になる。そして、新たになった考えを基に、心見つめシートに書いている今までの考えや経験を振り返り、これからどのような自分になりたいか、どのようなことができるようになりたいか道徳的実践への思いを確かにすることができるようにする。

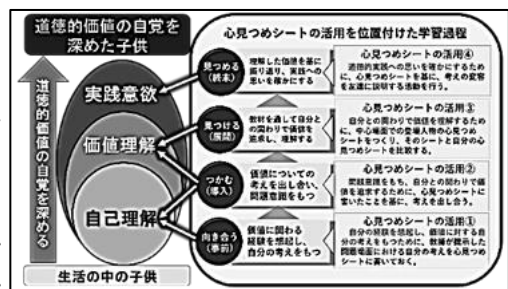


図7 研究構想図

(4) 指導の実際（10月実証）

ア 主 題 名 相手のことを考えて【B－8 礼儀】

教 材 名 おじいさんの「こんにちは」（学研教育みらい「新・みんなのどうとく」3年）

イ 本主題のねらい

- 挨拶する場面の自分の経験を想起し、自分の考えや行動を振り返ることができる。（自己理解）
- 相手の気持ちや状況を考え、そのときの相手に応じた行動ができることが礼儀正しさであることを理解し、自分の考えを付加、修正、強化することができる。（価値理解）
- 付加、修正、強化した考えを基に、実践への思いを確かに行うことができる。（実践意欲）

ウ 単元の仮説

第3学年主題 相手のことを考えて【B－8 礼儀】の学習において、次の手立てを行えば、道徳的価値の自覚を深める子供が育つであろう。

- 価値に対する自分の考えや行動を振り返るための問題場面の設定【着眼ア・イ（7）】

次の2つの条件に合う問題場面を提示する。①教材の中に描かれているどのような挨拶をしたらよいのか悩む葛藤場面と類似した場面、②子供同士の考えにずれが生まれるような場面。

- 道徳的価値を自分との関わりで理解するための心見つめシートの活用【着眼イ（7）（イ）】

登場人物の心見つめシートを作成し、自分の心見つめシートと比較する活動を設定する。

- 道徳的実践への思いを確かに行うための心見つめシートの活用【着眼ウ】

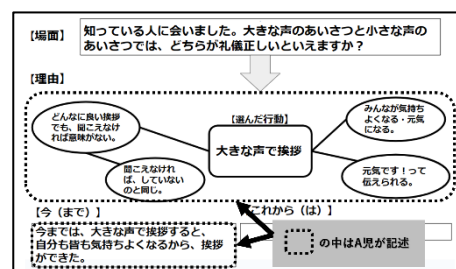
心見つめシートを使って自分の考えの変容を友達に説明したり、自分の経験を想起したりする振り返り活動を設定する。

エ 指導の実際

事前のアンケートでは、「礼儀正しいとはどういうことですか」という問いに対し、礼儀正しい行為を答える子供が多く、相手の気持ちや状況を考える心に目を向けられている子供は少なかった。生活の中でも、場の雰囲気や状況を考えず、大きな声で挨拶をしたり、話しかけたりする実態があった。その実態と教材の内容を踏まえ、子供に提示する場面を、「知っている人に会いました。そのとき、大きな声の挨拶と小さな声の挨拶では、どちらが礼儀正しいと思いますか」と設定した。

(7) 向き合う段階（事前）

向き合う段階では、提示した場面でのどのような行動をとるか考え、自分の経験を振り返ることを通して、自分の考えをもつことをねらいとした。提示された場面に対してA児は、「聞こえないと意味がないと思うから」「みんなが気持ちよくなるから」と考え、大きな声の挨拶を選択し、「今まで、大きな声で挨拶することができていた」と自分の行動を振り返り、心見つめシートに記述した（資料1）【着眼ア】。



資料1 A児の心見つめシート（事前）

(イ) つかむ段階（導入）

つかむ段階では、設定した場面における子供同士の考えのずれから、問題意識をもつことをねらいとした。そのために、心見つめシートを基に、自分の考えを出し合う活動を設定した。そこでA児が、「みんなが嬉しくなったり、元気になったりするから大きな声の挨拶がよい」と発言したのに対し、B児は「大きな声だったら、びっくりさせたり、迷惑をかけたりするから小さな声がよい」と異なる考えを発言し、その後の「どのようなことを考えたいか」という教師の発問に対し、A児は「礼儀正しい挨拶とは、どのようなものか考えたい」と発言した【着眼イ（7）】。

考察1

A児の「礼儀正しい挨拶とは、どのようなものか考えたい」という発言のように、子供たちは自分の考えと友達のとを比較し、そのずれから問題意識をもつことができた。これは、道徳的問題場面においてどの行動が正しいか、事前に自分の考えを振り返っていたからこそ表れた姿である。この

ことから、子供同士の考えのずれが生まれるような場面を設定したことや、事前の活動において心見つけシートを書き、子供たちが自分の考えをもっていたことは、問題意識をもたせる上で有効であったと考える。

(ウ) 見つける段階（展開）

見つける段階では、相手の気持ちや状況を考え、相手に応じた挨拶をすることが礼儀正しい挨拶であると理解することをねらいとした。そのために、登場人物が価値に気づき行動した場面での考えを自分の心見つけシートと同じ形式のシートにまとめ、礼儀正しい挨拶とはどういうことかを話し合った。A児がまとめた登場人物のシートには「じやましないように」や「おばあさんのため」と書かれておりその後の自分の心見つけシートでは、大きな声の挨拶がよいという考えが変わり、「作業をされていて、邪魔をしないで、ときによっては危ないときもあるから」という考えが付け加わった（資料2）〔着眼イ（7）（イ）〕。

考察2

A児は、登場人物の置かれている状況に共感し、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで理解することができた。その根拠は、資料2のように教材を通して考えたことを基に自分の心見つけシートの考えを付加、修正することができていたからである。しかし、他の子供の追記した心見つけシートを見ると、付加した内容が行動に関することのみで、その理由となる新たな考えを付加したり、もともとあった自分の考えを振り返って、強化や修正したりすることが不十分な子供もいた。

(エ) 見つめる段階（終末）

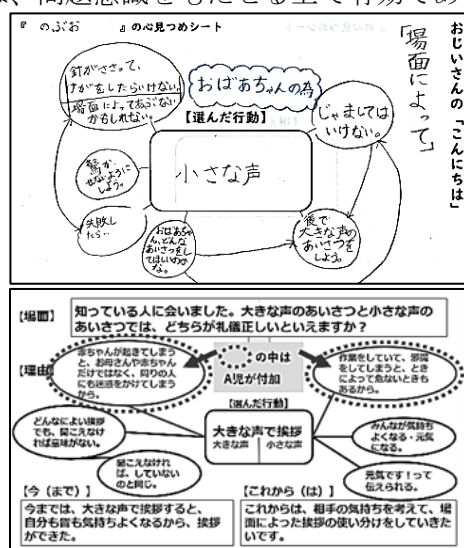
見つめる段階では、新たになった考えから、道徳的实践への思いを確かにすることをねらいとした。そのために、自分の心見つけシートを基に、自分の考えの変容を説明し合う活動や事前に行っていた今までの自分の行動を振り返ったり、道徳的価値に関わる経験を想起したりする活動を設定した。A児は、友達に自分の考えが授業前とどのように変化したかを説明し、その後の振り返りでは、「今までは、みんなが気持ちよくなると思って大きな声で挨拶をしていたけれど、これからは、相手の気持ちを考えて、場面に応じた挨拶の使い分けをしていきたい」と発言した〔着眼ウ〕。

考察3

振り返りでの「今までは、みんなが気持ちよくなると思って大きな声で挨拶をしていたけれど、これからは、相手の気持ちを考えて、場面に応じた挨拶の使い分けをしていきたい」という発言のように、A児は、今までの自分の姿と理解した価値を繋げて、どのようなことができるようになりたいかという道徳的实践への思いを確かにすることができた。このことから、見つめる段階の振り返りにおいて考えの変容が見える心見つけシートを活用したことは有効であったと考える。

オ 全体考察

共通の問題場面を設定したことで、価値に対する自分の考え方を理解することができ、その考えを出し合うことで子供同士の考えのずれが生まれ、子供の問題意識に繋がった。また、心見つけシートを基に自分の考えの変容を説明したり、今までの自分を振り返ったりしたことで、子供が考えの変容を捉え、これからの道徳的实践への思いを確かにする姿に繋がった。一方で、自分の考えを振り返ることができていない子供もいた。それは、設定した問題場面が抽象的で、自分の経験を振り返りにくいものであったことや心見つけシートの形式が問題場面における行動を選択した後、その理由となる考えを書くという順で考えるようになっていたことが原因であると考えられる。その課題を踏まえて、次の2つのことを改善する。①具体的に子供のこれまでの経験の中にありそうな場面という視点で問題場面を設定し、「向き合う」段階で提示すること、②心見つけシートの形式を問題場面における考えや気持ちを書いた後で、行動を選択するという順に考えることができるものに変えることである。



資料2 A児がまとめた心見つけシート

(5) 指導の実例（12月実証）

ア 主 題 名 友だちならどうする【B-9 友情、信頼】

教 材 名 絵葉書と切手（学研教育みらい「新・みんなのどうとく」3年）

イ 本主題のねらい

- 友達との関わり方を想起し、自分の考えや行動を振り返ることができる。（自己理解）
- 仲よしの友達だからこそ、友達のこれからのことを想像し、何が友達のためになるのかを考えて行動することが大切であると理解し、考えを付加、修正、強化することができる。（価値理解）
- これからどのように友達と関わっていくか、思いを確かに行うことができる。（実践意欲）

ウ 単元の仮説

第3学年主題 友だちならどうする【B-9 友情、信頼】の学習において、次の手立てを行えば、道徳的価値の自覚を深める子供が育つであろう。

○ 価値に対する自分の考えや行動を振り返るための問題場面の設定【着眼ア・イ（7）】

次の3つの条件に合う問題場面を提示する。①教材の中に描かれている葛藤場面と類似した場面、②場面の中に出てくる対象と行為が子供の経験の中にありそうな場面、③子供同士の考えにずれが生まれるような場面。

○ 道徳的価値を自分との関わりで理解するための心見つめシートの活用【着眼イ（7）（イ）】

登場人物の心見つめシートを作成し、自分の心見つめシートと比較する活動を設定する。

○ 道徳的実践への思いを確かにするための心見つめシートの活用【着眼ウ】

心見つめシートを使って自分の考えの変容を友達に説明したり、自分の経験を想起したりする振り返り活動を設定する。

エ 指導の実例

事前のアンケートでは、「友達の間違いに気付いたとき、そのことを伝えるか」という質問に対しては「伝える」と答えた子供は25%だった。理由として、「相手が嫌がるから」や「仲が悪くなるから」と考える子供が多く、友達のために忠告することの大切さに気付いていなかったり、気付いていても行動できなかったりする実態があった。その実態と教材の内容を踏まえ、子供に提示する場面を、「いつもいっしょに遊んでいる仲よしの友達が教えてくれた問題の解き方が間違っていました。そのことに気付いたあなたは友達に伝えますか」と設定した【着眼ア】。

（7）向き合う段階（事前）

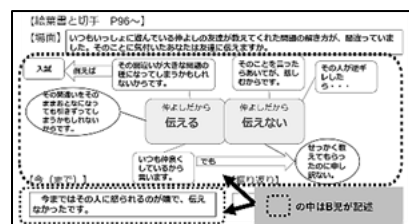
向き合う段階では、提示した場面でどのような行動をとるか考えることを通して、自分の経験を振り返り自分の考えをもつことをねらいとした。教師が提示した場面に対してB児は、判断の理由となる自分の考えと今までにどのような行動をしていたかを振り返り、心見つめシートに記述した（資料3）【着眼ア】。

（イ）つかむ段階（導入）

つかむ段階では、設定した場面における子供同士の考えのずれから、問題意識をもつことをねらいとした。考えを出し合った際にB児は、資料4のC1の発言をした。その後、C2～5の友達の考えを聞き、「どのようなことを考えたいか」という教師の発問に対し、「相手のためになるのは、伝えると伝えないのどちらなのだろうか」と発言した。【着眼イ（7）】。

考察1

B児は自分の考えと友達の考えを比較し、そのずれから問題意識をもつことができた。その根拠は、友達の考えを聞いた後のB児のC6のような発言である。このことから、子供同士の考えのずれが生まれるような場面を設定したことや、事前の活動において心見つめシートを書き、子供たちが自分の考えをもっていたことが有効であったと考える。



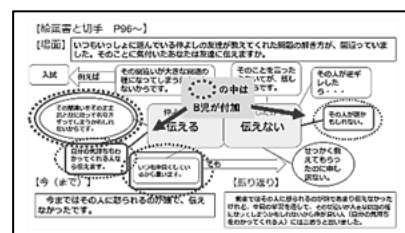
資料3 B児の心見つめシート（事前）

- C1 言ったら友達に怒られるかもしれない
- C2 伝えた方が友達が問題を間違えないから
- C3 伝えた方が仲良くなれると思う
- C4 伝えてしまうと次教えてくれなくなるかも
- C5 でも間違った解き方をつけていると将来困るかも
- T1 今日はどんなことを考えたいですか
- C6 相手のためになるのは、伝えると伝えないのどちらなのだろうか。

資料4 導入時の子供の発言

(ウ) 見つける段階（展開）

見つける段階では、仲よしの友達だからこそ、友達のこれからのことを想像し、何が友達のためになるのかを考えて行動することが大切であると理解し、考えを付加、修正、強化することをねらいとした。ひろ子の行動につながる考えをひろ子の心見つめシートにまとめる活動を行った際、B児はシートに「いつも一緒にいたから」や「間違えないように」と考えを記述した。その後の自分の心見つめシートに追記する活動では、伝える方に「自分の気持ちも分かってくれる人なら伝える」という考えが付加された（資料5）[着眼イ（7）（イ）]。



資料5 B児の心見つめシート（事後）

考察2

B児は、自分との関わりでねらいとする道徳的価値を理解することができた。その根拠は、資料5のように、ひろ子のシートにまとめた考えを基に、自分の心見つめシートの考えを付加、修正、強化することができていたからである。10月実証と違い、子供たち全員がどのような行動がよいかではなく、行動につながる考えを付加、修正、強化することができていた。このことから、教材と類似した子供の経験に近い問題場面を設定したことや、心見つめシートを問題場面で葛藤する考えを書き出し、行動を判断するという形式にしたことが有効であったと考える。一方で、「仲よしの友達だからこそ」という信頼の価値まで理解を深められた子供が少なかった。

(エ) 見つめる段階（終末）

見つめる段階では、付加、修正、強化した考えを基に、これからどのように友達と関わっていくか、思いを確かにすることをねらいとした。友達と考えの変容を説明し合った際にB児は、心見つめシートを見ながら、自分の考えが授業前とどのように変化したかを説明した。その後の振り返りでは、「前まではその人に怒られるのが嫌であまり伝えなかったけれど、今回の学習を通して、間違いが大きな問題にならないように気持ちを分かってくれる人には言おうと思いました。」と発言した[着眼ウ]。

考察3

B児は、道徳的実践への思いを確かに行うことができた。その根拠は、今までの自分を振り返り、理解した価値を基に、これからについて考えることができていたからである。このことから、振り返りにおいて考えの変容が見える心見つめシートを活用したことは有効であったと考える。

オ 全体考察

10月実証では自分の考えを振り返ることができていない子供がいたことが課題として挙げられていた。そのため、①問題の設定条件に新たな条件を加えること、②心見つめシートの形式を変更することの2つを行った。すると、すべての子供が理解したことを基に、自分の事前の考えを付加、修正、強化することができた。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 事前に道徳的問題場面における自分の考えをもったり、心見つめシートを活用した振り返り活動を行ったりすることで、今までの自分の経験を振り返り、教材で理解したことを基に、道徳的実践への思いを確かにする子供の姿が見られた。[着眼ア、イ（7）、ウ]

(2) 課題

- 教材や場面に応じて、共感的だけでなく、より多角的な思考を働かせることができるような発問や表現活動を検討する。[着眼イ（イ）]

6 研修を修了しての感想

この1年間の研修を通して、多くの先生方にご指導ご助言をいただきながら、道徳科について一から学ぶことができました。未来を担う子供の資質・能力を特別の教科としての道徳科でどのように定め、どのように育成していくかを考えながら今後も研鑽を積んでいく所存です。

備考 ○ 在籍校と電話番号 宗像市立赤間小学校 TEL (0940)32-3029